



〈 連載(218) 〉

日韓航路の客船事業の拡大



大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授
池田 良穂

10月に、韓日海峡沿岸クルーズ観光討論会というシンポジウムに招かれて講演し、世界のクルーズの現状の紹介と、日韓海峡を利用した船旅事業振興についてのいくつかの提言をさせてもらった。このシンポジウムは、日本の長崎、佐賀、福岡、山口県と、韓国の全羅南道、慶尚南道、釜山広域市という対馬海峡を挟む位置にある日韓の自治体が主体となっている日韓海峡観光交流会が開催したもので、全羅南道の木浦（モクポ）の「ホテル現代」の会議場で開催された。釜山の空港からバスで高速道路を移動すること3時間ほどの距離にある。ホテルの横には、現代重工の造船所が広がり、たくさんの貨物船が建造中であった。このホテル現代は、造船所の迎賓館を兼ねたものようで、ずいぶん立派なホテルであった。

さて主催した日韓海峡観光交流会は15年もの歴史があり、海をはさんだ日韓相互の観光振興を行ってきたとのこと。しかし今回のシンポジウムは、これまでの一般的な観光振興とは一味違ったクルーズをテーマにしたものであった。それは2012年に全羅南道の麗水（ヨス）で開催される海洋をメ

ーンテーマとする万博を機会に、日韓のクルーズ振興を行うことを目的としていた。ヨスには、3万トン程度のクルーズ客船の停泊できる岸壁が既に整備されており、商船三井客船のクルーズ客船「にっぽん丸」が入港した実績もあるとのこと。4年後の万博までには8万トンまでのクルーズ客船が停泊できるようにインフラ整備がなされるとのことであった。

シンポジウムでは筆者の講演の他、釜山の東西大学観光学部の成教授の「2012麗水万博と連結したクルーズ産業の活性化方策」という講演があり、その後、関係者のパネルディスカッションが行われた。韓国のクルーズ産業の歴史をみると、まず現代クルーズが3隻の中古クルーズ客船を購入して金剛山観光クルーズを実施、さらにスタークルーズの日韓クルーズの実施があったものの、いずれも中止となっている。現在は、国際フェリー会社のパンスターフェリーが、日韓航路の国際フェリーの運航の傍ら、週末などに釜山基点のショートクルーズを実施しているだけである。すなわち、日本の状況に比べても、韓国の国内産業と

してのクルーズ産業は、まだ産声をあげたばかりの状況である。

しかし、最近では海外のクルーズ客船誘致には積極的な姿勢を示しており、釜山港をはじめとしていくつかの港にクルーズ客船ターミナルを造りつつある。先月、釜山を訪問した時には、新設のクルーズターミナルには11万トン型の「サファイア・プリンセス」と、日本の「飛鳥Ⅱ」が相次いで入港していた。いずれも三菱長崎の建造船だ。成教授の講演によれば、韓国では5～8万トン型クルーズ客船に対応のクルーズターミナルが、釜山だけでなく、木浦、仁川、済州、平澤港に建設予定で、その総事業費は3136億ウォンとのことである。そして、韓国のクルーズ産業が成長すれば、韓国の造船業にとっても将来的に大きな希望になることを強調していた。



釜山港の新クルーズターミナルに着岸する「サファイア・プリンセス」

釜山だけでなく、麗水、木浦、済州島と、韓国南部に複数のクルーズ客船受け入れ港ができるということは、日本のクルーズ産業にとってもメリットは大きい。なかなかよい外国の寄港地がなかっただけに、その選択肢が大きく増えたからだ。また九州の

自治体にとっては、これらの港に寄港するクルーズ客船の数が増えれば、九州の各港湾への寄港も増え、その活性化の強力なカンフル剤となる可能性も大きい。「にっぽん丸」が、毎年夏に小樽港から実施している定点港を起点のフライクルーズ「飛んでクルーズ北海道」のような企画が、九州の港を起点としても可能になると思われる。

シンポジウムの中で、済州島の耽羅大学の観光経営学科の姜教授は、上海を基点とする中国人のクルーズ客が済州島寄港時にわずか15%しか下船せず、期待した経済効果があがらない現実を紹介していた。中国人クルーズ客のもっぱらの嗜好は買物とのことで、大きなデパートや免税店がないとなかなか上陸もしてくれないというのが現実という。クルーズ客船は、船自身がディスプレイステーションと言われるほど、船内設備とサービスが充実しており、それに勝る魅力が寄港地にないと、こうしたことが起こりうる。港と中心街とのアクセスの重要性、魅力的な観光スポットをまわるオプションルツアーを多数用意するなどの対策が必要との議論となった。

今回のシンポジウムに合わせた全羅南道の視察ツアーでいくつかの町や村、観光地を回ってみて、大都会である釜山とは違った魅力があるのに驚いた。人情味にあつく、自然が残り、食事も美味しい。しかも、円高ウォン安のせいで物価も相対的にずいぶん安いのが日本人観光客にとっては大きな魅力だ。船で行く韓国の身近な旅をぜひお楽しみいただきたい。



金沢～釜山航路に就航する国際フェリー「パンスター・ハニー」

クルーズ客船だけでなく、クルーズフェリー化した日韓航路の国際フェリーも楽しい。こちらは年間を通じて定期的に運航されているので、思った時にパスポートをもって港にいけば韓国への気軽な船旅が楽しめる。博多、下関、門司、大阪、金沢から釜山へのフェリー航路が開設されている。

新刊紹介

海の安全管理学

— 操船リスクアナリシス・予防安全の科学的技法 —

神戸大学大学院 海事研究科 教授

井上 欣三 著

これまでの海の世界の安全管理は、自然を相手にした予測の難しい事象が多かったこともあり、現実的には事が起きてから対策をとらざるを得ないことが多かった。しかし、現在ではさまざまな情報が蓄積され、予測技術や解析手法などが飛躍的に発達し、予防安全の実効性が広く認められるようになってきた。

その一方で、予防安全を絵に描いた餅に終わらせないためには、現場の海技者が安全管理の概念から実践的な手法まで習得し、船舶運航能力とともに高度な安全管理能力を身につける必要がある。

本書は、海事における「安全」「管理」「予防安全」の概念を指針的に解説するとともに次世代の海技者に求められる安全管理技法、リスクアナリシス

技法などについても実例を交えて実践的に解説したものである。特にBRM (Bridge Resource Management)、FTA (Fault Tree Analysis)、M-SHELLモデルなど、操船者が事故を起こさないために必要な知識や技術に関する記述は、実務マニュアルや安全ガイドラインとしても利用できる内容になっている。

学生が安全管理を学ぶためのテキストとして最適な内容であるのはもちろん、実務においても常備図書として、また現場への応用などにも役立つ実践的な一冊である。



A5判154頁／定価2,520円(税込)／発送費390円

発売元：〒160-0012 東京都新宿区南元町4-51

(株)成山堂書店

TEL.03 (3357) 5861 FAX.03 (3357) 5867

E-mail: publisher@seizando.co.jp